

理科部会

高鷹 美恵子

理科に自然科学の視点を

理科部会は、毎月第2木曜日に、エデュカス5階会議室で定例会を開いて活動しています。

地域の地形学習が重要

今年度は、3・11の大震災と原発事故を経験して、小、中学校で地震学習がどのようにされているかの検討から始めました。地震学習には、防災の観点からも、住んでいる地域の地形学習をいぬいにする必要があるが、現状では不十分であること、また、津波についての科学的な学習はされていないことを学び、どのような学習を付け加えていかななくてはならないかについて検討しました。

津波後の復興の様子

津波で大きな被害を受けた東北の海岸に近い町の被害の実際、復興の様子につ

いても、部員が尋ねて記録してきたビデオを見ながら学習しました。津波の力の大きさの前では、人工の防波堤がいかにもろかったかを目の当たりにするとともに、古くから被害を受けていた人々の言い伝えが、命を救うことになった事例も学びました。やはり、住んでいる地域の地形の学習が不可欠でした。

放射能に関する副読本の批判検討

さらに、文科省が作り、各校に配布した「放射線に関する副読本」の批判検討をしました。中学校に配布された「知ることからはじめよう 放射線のいろいろ」を丁寧に検討しました。この副読本に書かれていることは、間違いではないが、全体に「放射線は、身近にいつでもある」「有効に利用されている」など、「放射線は安全、少なくとも危険ではない」

というイメージを学習者に感じさせるようになっていくこと、放射線の危険性についてはあまり触れていないこと、特に、原子力発電について、福島第1原発の事故についてはほとんど触れていないことが問題点でした。さらに、この副読本にそって学習するよう指導されている地域が出てきていることが分かってきました。

そこで、この副読本で生徒に指導することになったときに、批判的に読む観点と、生徒の理解を深めるための資料を付け加えた「指導書」のようなもの作成を計画しています。集団で検討し、よいものにしていきたいと考えています。

大切にしたい自然科学の視点

話し合いの中で繰り返し確認し合ったのは、地震や津波、放射線などについての具体的な学習も不十分なので、おぎなっていく必要があるのですが、それだけでなく小、中を通しての理科学習に自然科学の視点が不可欠だという事でした。

部会にはどなたでも参加できますので、ぜひ、論議に参加してください。

(葛飾・柴又小)